



Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticano の転載許可済  
©1982 精道教育促進協会(芦屋) 三・二四二 芦屋市船戸町12-16

# 教皇様の敵

## 七つの秘跡 (I)

今回のヨハネ・パウロ二世教皇の英国及びウエルズ訪問の全般的テーマは、七つの秘跡でした。ロンドン・ウェストミンスター大聖堂では四人に洗礼を、そして、南ロンドン・サウスウオーク聖堂では病者の塗油を、コベントリーでは堅信を、マンチェスターでは十二人に叙階を、カーディフでは子供たちに初聖体をそれぞれ授けられ、リバプールとヨークでは、それぞれ告解と婚姻の秘跡について詳しく述べられました。

### 洗礼

洗礼によって私たちは信仰の共同体に入ります。巡礼者である神の民の一員になるわけです。いつでも、どこでも、神の民は「約束」の成就に向かって希望のうちに前進していきます。最初から彼らは「使徒たちの教えること」と、兄弟的な一致、パンを裂くこと、祈りをするに専念していました。「使徒行録? 24」責任と愛をもって、このような人たちの真近にみずからの位置を定めることが私たちの仕事です。

洗礼は秘跡による一致の絆を生み出します。その絆は、洗礼によって新たに生まれました。

ての人々を結びつけるものです。しかし、洗礼それ自体は始まりに過ぎません。洗礼の秘跡は出発点なのです。なぜなら洗礼は、キリストにおける完全なる生命へ全面的に向かつて行くものですから。

洗礼は、キリスト信者がキリストのうちに持っている一致、私たちが到達すべき一致の基盤となるものです。キリスト信者としての権利と義務をはっきりと並べてみると、キリストがご自身の教会にお望みになった「信仰と愛の完全なる一致」を私たち皆がずっと保ちつつけていないことを恥ずかしく思います。洗礼を受けた私たちには、キリストにおける兄弟姉妹として共に成すべき仕事があります。世界はイエズス・キリストとその福音を

必要としています。すなわち、神は私たちを愛してくださっている、神の御子がお生まれになり、私たちの救いのために十字架につけられ、死去され、再びよみがえられた、私たちもキリストと共によみがえり、洗礼において初めて聖霊による封印を受けた、洗は、愛と神の真理の証人の共同体に私たちをお集めることになる——このような良い知らせを、世界中が必要としているのです。

洗礼にはいくつもの要素がありますが、クリスチャン・ネームと呼ばれる名前をいただくことは、おそらくだれもが一番よく知っていることでしょう。教会の伝統によれば、それは聖人たち、キリストに従った人々、つまり使徒たちや殉教者たち、聖ベネディクトのような修道会の創始者たちの名前などから選ばれます。聖ベネディクトは、この近くのウエストミンスター大寺院を建立しました。そこでみなさん方の女王が戴冠されることになっていきます。聖人たちの名前をつけることによって、私たちは諸聖人の通功(聖徒の交わり)に呼ばれていることを思い出すと同時に、キリスト信者の生活の立派な模範を眼前におくこととなります。ロンドンにはとくに二人の著名な聖人、ジョン・フィッシュヤーとトーマス・モアがいます。世界的基準から見てもこの二人は偉大な人たちであり、みなさん方の国家遺産への貢献者です。

預言者エゼキエルは、この新しい民の真の羊飼いは神ご自身であることを思いおこさせます。神おんみずから羊を放牧され、休むべき場所を示されます。「牧者が、その散っている羊とともにいるとき、むれを心にかけているように、私は、自分の羊を世話し、きりとやみの時に散ったところから、かれらを救い出す。私は失ったものを探しだし、迷ったものを連れかえり、傷ついたものを巻き、弱ったものを強め、よく肥えた強いものを守り、よろしくかれらを牧そう。」(エゼキエル34・

12、16)

ご一緒に洗礼の約束を新たにしましょう。罪と悪の誘惑、罪の父、暗黒の王子であるサタンを退けるつもりです。唯一の神と、御子救い主イエズス・キリスト、聖霊の降臨、教会、永遠の生命への信仰を告白します。自分の言葉に責任をもち、神との契約の義務を果たしますと。

兄弟姉妹のみなさん、この契約に忠実であるためには、祈りの人、霊的な深みをもった人でなければなりません。私たちの社会に必要なのは、神の愛にみちた現存を再確認し、神の御旨に対する尊敬を取りもどすことです。聖母マリアからこれを学びましょう。英国では何世紀にもわたって「マリアの持参金」である信者が、聖地ウォルシンガムへの巡礼を続けてきました。今日はウォルシンガムのかわりにウェンブリーにやってきました。(教皇様の日程が密なため、ウォルシンガム訪問ができなかったので、聖母像はウェンブリーにもってこられた。)ウォルシンガムの聖母の御像もここにあります。心を上げて聖母について黙想しましょう。聖母は、恐れることなく、神の御旨に従い、聖霊の御力によって神の御子をお生みになりました。御母は、十字架のもとにしっかりと留まり、祈りのうちに、誕生したばかりの教会上に聖霊がお下りになるのを待っておられました。この慌しく騒々しい世の中であって、沈黙のうちに心を神にあげ、神のみ声に聴きいるためにはどうすればよいか、これを教えてくださるのは聖母マリアなのです。祈るための時間をみつめてくださるのも聖母マリアにほかなりません。きわめて福音的なロザリオの祈りを唱えれば、イエズスに近づく手助けもお与えになります。聖母の生き方を私たちの生き方にしなければなりません。日々、仕事や心配ごとに明け暮れるなかで、神の現存を保ち、知恵と心を主に向けて生きるのです。親にとっても子にと

つても、みなさんの家庭が祈りの学舎まなぶやであり  
ますように。家庭生活の中心は神でなければ  
なりません。日曜日は聖なる日ですから、日  
曜日の義務を果たしてください。ミサにあず  
かるのです。ミサ中に神の民は祭壇前で心を  
一つにして集い、神を礼拝し、取りなしをお  
願ひします。洗礼の恵みとして受けた特権を  
つかって、御子キリストとの一致のうちに神  
を賛美し、教会と心をひとつにして神を称え  
崇めるのです。

兄弟のみなさん、神との契約に忠実を保つ  
には、祈る民であると同時に、天の御父のみ  
旨を行う民でなければなりません。この点に  
ついて、教えてくださるのは聖母マリヤで  
す。従順な聖母は、生涯に関する神のご計画  
をことごとく受け入れ、偉大なことをなした  
げられました。「ああ、幸せなこと、主から  
言われたことの実現を信じた方は！」(ルカ  
1・45)

キリストのみ言葉をほんとうに受け入れた  
と言えるためには、キリスト者としての召命  
を受けた者に求められる、道徳面での義務を  
も受け入れなければなりません。そして、こ  
の義務を果たすには、人性をおとりになっ  
た神のみことばイエズス・キリストへの従順を  
愛さなければなりません。信者の果たすべき  
道徳的な義務は、時には実行しがたく、また  
必ず私たちの努力と神の恩寵がなければ果た  
せませんが、信仰さえ強ければ、不可能でも  
無理でもないことはおわかりでしょう。福音  
に忠実であろうとすると、現代の風潮と相容  
れない面がみつかるのも確かです。私たちは  
この世のなかに生きる人間です。私たちはこ  
の世界に遣わされたキリストの弟子なのです。  
しかし、この世に属するわけではありません。  
(ヨハネ17・16、18参照) 世間で言う価値と  
は衝突しますが、その衝突の部分はカトリッ  
ク教会の生命にとっても、私たち一人ひとり  
の生活にとっても、避けて通ることのできな

い一面なのです。これこそ、聖パウロが「忍  
耐」に頼らねばならぬとする理由なのです。  
私たちは、希望と忍耐をもって、救いを待ち  
ながら、心の中では呻き苦しんでいます。  
(ローマ8・23〜25参照)

道徳の低下

信者の生活に欠かすことのできない道徳的  
価値が、日毎に軽んじられているという事実  
を、私はたびたび指摘してきました。道徳面  
での価値基準は、人間の生活にとって絶対に  
必要です。人間とは、神の似姿として創られ  
より一層崇高な被造物になるよう神から定め  
られてた自由な行為者であるからです。

世界中で、胎児の生命が軽視され、婚姻の  
不解消性も重んじられなくなっています。安  
定した聖なる家庭生活を勧め支えることがで  
きなくなっています。誠実と信頼を基とすべ  
き人間関係が危機に瀕しています。利己主義  
が氾濫し、性の解放や麻薬が何百万という人  
人の生命を破壊しており、国際関係も緊迫し  
た状態にあります。いずれも、過去の不均衡  
や不正な経済、社会、文化、政治の構造がそ  
の原因であり、必要なのは正手段の適用が遅れ  
ているためであります。以上すべて、人間の  
類まれな尊厳について誤った考え方をする結  
果、人に仕えるよりも、むしろ権力を志向す  
ることに原因があるようです。

私たち信者はこういう状態に甘んじてよい  
ものでしょうか。全てを改善することなど到  
底できないと考え、冷やかな態度をとって  
てよいものでしょうか。

兄弟のみなさん、キリスト信者としての召  
命の真髄は、私たちが生きている世界に対し、  
「光」であり「塩」であることにあります。  
恐れる必要はありません。「霊が私たちの弱  
さを助けに来てくださいます。」(ローマ8・26)  
聖霊降臨の日、イエルサレムで聖母と使徒  
たちが共に集う場面を思い出してください。

その日使徒の知恵と心に満ちた聖霊は、今日  
も、教会全体を満たして下さっていること  
を忘れないでください。聖霊は、まことにう  
るわしく力強いたまものを与えてくださいま  
す。「霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、仁  
慈、善良、柔和、節制である。」(ガラツィア5・  
22)

イエズスのみことばを心から受け入れまし  
よう。「渴いている人があれば、私のもとに  
来て飲むがよい。」(ヨハネ7・37) そうすれ  
ば、霊の賜物をうけるでしょう。「生ける水  
の川がその(イエズスの)ふところから流れ  
出るだろう。(…)彼は、自分を信じる人々が  
うけるはずの霊について話しておられた。」  
(ヨハネ7・38、39) だから、聖霊の御力の  
おかげで、私たちは祈る民となるのです。ま  
ことに聖霊ご自身、私たちの中に来てくださ  
り、私たちのために祈ってくださいます。お  
かげで、私たちは聖なる民となります。

キリストにおける愛する兄弟のみなさん、  
キリスト者としての召命の重大さを悟って  
ください。キリストは、みなさんを暗闇から、  
ご自分の素晴らしい光の中へ呼びくださいま  
した。洗礼によって、神がみなさんのために  
なさってくださいましたことをよく考えてくださ  
い。目を天にあげ、みなさんを待ちうける永  
遠の光栄を心に描きましょう。「私の魂よ、  
主を祝せよ。主よ、私の神よ、御身は偉大な  
もの。主よ、御身のみ業のおびただしさ、御  
身が息をおくれば、彼らは創られ、御身は地  
の面を新たにされる。」(詩篇104・1、24、30)  
アーメン。

堅信

堅信の秘跡をうけようとしている若い人た  
ちにお話ししましょう。今日の福音は、あなた  
がたにとって特別な意味があります。「イエ  
ズが来られた。そして、彼らの中に立ち、

『あなたたちに平和ノ』と言われた。こう言っ  
てその御手と御脇を見せられた。弟子たちは  
主を見て喜んだ。イエズスはまた言われた、  
『あなたたちに平和ノ父が私を送られたよう  
に、私もあなたたちを送る』。そう言いながら  
彼らに息を吹きかけて言われた。『聖霊を受  
けよ。』(ヨハネ20・20、22)

キリストからの聖霊の賜物が、特別の方法  
で注がれようとしています。信仰を堅めてく  
ださる聖霊、神の愛のうちにあなたがたがい  
ることを確認させ、あなたがたを力づけて神  
への奉仕にかりたててくださる聖霊を求めて  
祈る教会の言葉を聞きます。そうすれば、世  
界中のキリスト信者の仲間、神の民のうちで  
一人前の住民になるのです。イエズス・キリ  
ストのみ名のもとに福音の真の証言者となり  
ます。すべての人の生活を聖なるものとする  
ように自らも生活し、堅信を受けた他の人々  
と共に、平和の大聖堂の「生ける石」になり  
ます。実にあなたがたは、平和の道具となる  
ために、神に召されたのです。

あなたは一人ぼっちではないことを知らな  
ければなりません。私たちは、キリストのう  
ちに、一つの体、一つの民、一つの教会なの  
ですから。横におられる代父母が全共同体を  
代表しています。あらゆる人の中から選ばれ  
た多くの証人と共に、あなたがたはキリスト  
を代表します。キリストの使命を受けた若者  
です。キリストは言われました。「父が私を  
送られたように、私もあなたたちを送る」と。  
「イエズスは彼らに息を吹きかけて言われ  
た。『聖霊を受けよ。あなたたちが罪を許す  
人にはその罪がゆるされ、あなたたちが罪を  
許さぬ人はゆるされない』(ヨハネ20・23)

最初の聖霊降臨において、救い主が弟子た  
ちの心に聖霊の賜物を注がれた時、彼らに罪  
をゆるす権能をお与えになりました。その時  
と同じ聖霊が堅信の秘跡を通して、今日あな  
たがたに下ります。聖霊があなたがたに降り



# 説教・講話・書簡等の抄記

るのは、聖性を育てる使命、そして教会の、罪とのたたかいは加わる使命を、あなたがたに与えるためなのです。聖霊は心に深く住みつき、あなたがたに力を与えて悪との戦いにかかりたてるためになります。愛する若いみなさん、こんにちの世界は、あなたがたを必要としています。聖霊で満たされた人々を必要としています。あなたがたの勇氣と希望、信仰と忍耐を必要としています。あなたがたが明日の世界を創るのです。深い信仰と、不変の愛で仕事ができるように、そしてこの世に和解と平和のみのりをもたらす助け手となるように、本日聖霊の賜物を受けます。聖霊と神の数多いたまもの強められ、教会が続ける、罪との戦いに全力をそそいでください。利己的であってはけません。物質的なものに執着しないように、そして神の民の活動的な一員となってください。人々と和睦し、正義の仕事に尽くしてください。そうすれば世界に平和をもたらすことができます。主よ、御身のみわざのおびただしさよ。(詩篇104・24)

答唱詩篇のこの言葉を聞くと、心に感謝の念がわきます。賛美の歌が口をついてできます。実に主のみわざのおびただしさよ。堅信における聖霊の働きはなんと大きいことでしょうか。この秘跡が授けられるとき、詩篇の言葉が私たちの中で成就します。「御身が息をおくれば、彼らは創られ、御身は地の面を新たにされる。」(詩篇104・30)

初めての聖霊降臨の日、聖霊は弟子たちと聖母マリアの上に降り、彼らは聖霊の力で満たされました。今日、私たちがその瞬間を思い起こし、同じ聖霊の賜物を受け入れるべく再びみずからを開きます。私たちは、その聖霊において洗礼を受け、そして堅信の秘跡でかためられました。聖霊において、キリストの使命にあずかり、聖霊にみたまされた民、現代の使徒となります。「聖霊よ、来たりたまえ。」

信者の心にみちたまえ。主の愛熱の火をわれらに燃えしめたまえ。」  
アーメン。

## 聖体

今日のミサの朗読は、私たちに「聖体の秘義について熟考するよう求めていきます。この偉大な秘義は、神が荒野でイスラエルの民にマンナをお与えになった旧約の時代に預言されました。第一の朗読の中でモーゼが人々に語っています。「神なる主がこの四十年の間おまえたちに荒野を歩かせたその旅を思い出せ。(…)おまえもその父たちも知らなかったマンナを食べさせてくださった。それは人間とはパンだけで生きるのではなく、神の口から出るすべてのものによって生きるものであることを教えるためであった。」(第二法の書8・2・3) 神は人々に教えられました、「私はあなた方の神、主である。私だけが人々を奴隷から解放させることができる。私だけが約束の地に入るまでに遭遇する困難や苦しみの真ただ中において人々を愛する唯一の神である。飢え渴いている時天からのマンナと岩からの水を人々に与える唯一の神である。」

旧約時代に預言されたことは、イエズス・キリストにおいて成就されました。神はご自分に従う人々に信仰の旅路のための食物をお与えになりましたが、それは、教会にご聖体の賜物を委託されたときでした。イエズスご自身が新たな霊的食物なのです。すなわち、ご聖体はパンとぶどう酒の外観のもとに現存するキリストの御体と御血なのです。神は福音の中で述べておられます、「命のパンとは私のことだ。私に来る者はもう飢えることがなく、私を信じる者はいつまでも渴きを知らぬだろう。」(ヨハネ6・35)

見されたキリストの象徴であるご聖体がこれを明らかにしています。幸いにも、この偉大な遺産は初代から現在に至るまで続いていきます。と言っても別に私たちは驚きません。「ご聖体はキリスト信者の生活の中心的な位置を占めており、ご聖体の秘義は教会の秘義と密接に結びついているからです。教会のどの時代においても、神の民に滋養を与える食物はご聖体、すなわち主イエズス・キリストの御体と御血なのです。」

### 日々の糧

大へん美しい祈りが今日の福音に記されています。イエズスが天から下って世に命を与えるまことのパンについて人々に話されたとき、人々は叫びます。「主よ、私たちにいつもそのパンを下さい。」(ヨハネ6・34) この祈りは、食物への飢えとは比較できないほど深い飢えを表わしています。それは靈魂の底からの飢えであり、愛の完成を望む心からくる飢えなのです。完全な救いへの願いであり、満ちみてる命への切なる望み、神との一致への飢えなのです。この祈りに対する神の答えはキリストです。人間の心の中の最も激しい飢えに対する神の答えはキリストなのです。アダムとエヴァの罪以来、全人類の神に対する苦悩の叫びは神の御子が人間になられたことにおいて聞きいれられました。イエズスはなおもおっしゃいます、「命のパンとは私のことだ。私にくる者はもう飢えることがなく、私を信じる者はいつまでも渴きを知らぬだろう。」(ヨハネ6・35) 願わくは、この「主よ、私たちにいつもそのパンを下さい」との祈りがいつも私たちの祈りでありませう。初聖体の日から死の日まで、世に命を与えるまことのパンであるキリストに深い思慕をもてますように。

親愛なる子供たち、今日はイエズス様が今までとは違った特別の方法であなたがたの中に来られます。主は、あなたがたの中にお住みになり、あなたがたの心にお話しされ、いつまでもずっとあなたがたと共にいることをお望みになっています。

イエズス様は、あなたがたが永遠に生きることができるようにとご聖体の形であなたがたの中に来られるのです。ご聖体はふつうの食物ではありません。それは永遠の命のパンであって、金や銀よりもねうちがありません。あなたがたがいくら考えても考えられないほどねうちのあるものです。この神聖な食物はイエズス様の御体と御血なのです。

イエズス様は約束してくださいました。もしあなたがイエズス様の肉を食べ血を飲むなら、あなたは命を受け永遠に生きるだろうと。あなたがたは今日、信じ、祈りながら祭壇にやってきました。私に約束してください、あなたがたがいつもイエズス様の傍らにいますように努め、決してイエズス様に背を向けないということ。これからも、お祈りの中でイエズス様のお言葉を聞き、イエズス様に話しかけてイエズス様のことをもっとよく知ってください。もし、イエズス様のもとにとどまるなら、あなたがたはいつも幸せでしょう。

### 真のキリスト信者

親愛なるこの子供たちのご両親へ、みなさん方のキリストへの愛があればこそこの日が可能になりました。みなさん方は信仰の道におけるまず最初の教師です。私たちの信仰が真実のものであり、福音が貴いものであることを、みなさん方の言動によって子供たちに示してください。これは聖なる義務であるばかりか、恩恵であり、この上ない特権でもあります。教会の中で他の多くの人々もこの仕事に携わっていますが、子供たちの宗教教育の責任は親の双肩にかかっています。そこで、

# 不変の教え

まず家庭を真にキリスト教的にして欲しいのです。ナザレトでイエズス様が、神と人の前にその知恵も背丈も寵愛もますます増していかれた(ルカ2・25)ように、子供たちが成長し成熟するため助けてやってください。子供たちの経験や知識の欠如につけこむようなことは絶対に許してはなりません。子供一人ひとりの神へ向かう旅路を共に歩んでください。祈りと礼拝、神と人々への謙遜な愛という点においても子供たちと一致していきましょう。

## ■キリストのみ言葉をほんとうに受けいれたと言 えるためには、道徳面 の義務をも受けいれな ければなりません。

親愛なるカトリックの学校の先生方へ、みなさん方も今日の私たちのお祝いにほまれを受ける方々です。子供たちが立派に秘跡にあらずかり、キリストの共同体においてより積極的役割に向かう準備をするのを、ご両親方と共に手伝ってくださいました。子供たちに、神のお言葉をよく知り敬うよう教え、教会の教理を説いてください。このようにして、子供たちを豊かな救いの秘跡へと徐々に導いてゆくことができるのです。

みなさん方は偉大な伝統の継承者ですから、神の民に対して恩を受けていることになりません。信仰の特別な団体であるカトリック学校において大切な使命を果たすときには、教会への深い愛をもって行ってください。教会への愛が様々な活動を通してあふれ出ますように。信仰の遺産を忠実に伝えるとき、教会へ

の愛が反映しますように。  
成長への助け

愛すべき司祭たちへ、みなさん方にとっても、今日は喜びの日であります。この子供たちは、みなさん方が仕える特権を与えられている小教区の一員であるからです。家族・教師と共に、子供たちをより広いキリストの共同体へ導き、キリストのうちに完全に成熟するのを助けます。子供たちと教区全体のために、みなさん方は羊飼いで世話をするよう努めます。最良の羊飼いであってください。そして、救い主の生き方に倣ってください。司教様方が信仰における成人教育のプロゲラムを進展させたいと切望しておられるのを、私は知っています。みなさん方に、この努力の前兵になられるようお願いいたします。これは教会の活力にとって非常に重要なことなのです。

「聖体賛美を司祭の職務の最優先のものとするように勧めます。第二バチカン公会議の言葉を思い出してください。『全教会の職務及び全使徒職の成果と同様、他の秘跡も聖体に結びついており直接聖体に向かってい。最も祝されるべき聖体は教会のこの上ない霊的富を含有する。すなわち、聖体はキリストご自身であり、過越しであり、生きる命である。』あなたがたの仕事は教会にとって非常に重要であり、小教区民への偉大な奉仕となります。全てのキリスト者の生活の源であり頂点であるのが聖体の犠牲への賛美です。ミサは必ず深い畏敬と祈りの心で捧げてください。そして信徒の積極的参加を促すため、できる限りの努力を払ってください。みなさん方自身の毎日の聖体礼拝によってキリストの現存を信じる教会の信仰を証ししてください。公会議において決定された典礼上の刷新を通して、全ての小教区が信仰と愛により生き生きとした一団となりますように。

1 お告げの祈りのときを活用して、答唱詩篇の一つを味わってみましょう。

神よ、あなたのお慈悲によって、私をあれれみ、あなたの深い憐愍によって、私のとがを消されよ。たえず、私の不義を洗い、私の罪を清めよ。

神よ、私に清い心をつくり、新しい確かな霊を与えよ。み前から私を退けず、あなたの聖なる霊を、私から奪われるな。救いの喜びを私に返し、寛仁の霊をもって私を支えよ。私は、罪人たちに、あなたの道を教えよう、罪人があなたに立ち返るように。(詩篇51:3-4, 12-15)

2 詩篇の言葉は遠い昔から伝わってきました。キリストが来られる前からあった言葉であるのに、つねに新しい響きを持ち、今も私たちにびったりとあてはまります。時の流れに左右されないのです。それらはまた教会がひんばんに繰り返す宝とも言うべき言葉です。文学的に見ても傑作といつて過言ではありません。しかし、文字で書きあらわされる前に、すでに人々の良心に刻みつけられていました。罪と回心の証言でもあり、痛悔の心をおこし、神との和解を求める、人間の姿がよくあらわされた言葉なのです。(…)

本日は、この詩篇の言葉を、次回のシノドスのテーマと関連させて、考えてみましょう。

「悔悛と償い」というテーマが、どれほど人間の心をひくか、また、いかに深く人間の歴史に関わっているか、このようになことをこの詩篇の言葉ほど雄弁に語るものはないと思われます。

## アンジェルス・メッセージ 真理の霊と世の罪

3 「人間は神によって義のなかにおかれ、悪霊に誘われて、歴史の初めから、自由を乱用して神に対立し、自分の完成を神のほかに求めた。『現代世界憲章』では、このように簡潔に、人間の始まりと罪の歴史とを、要約してあります。この始まりの歴史は、代々続いてゆきました。罪の歴史は、人間の心を通り、心のなかで、どんどん広がり、やがて、家族、国家、人類の生活に、傷を残したのです。

「人間は、しばしば神を自分の根源として認めることを拒否し、また自分の究極目的への当然の秩序ならびに、自分自身と他人と全被造物とに対する調和を乱した。(13番)

4 「真理の霊が来るとき、罪について、義について、審判について、この世の過ちを指し示すであろう。』(ヨハネ16・18) 教会の使命のなかでの和解と悔悛とは、どういうものであるかを熟考しましょう。教会の根本的な使命は、「世の過ちを指し示す」ことです。現代は毎日に過ちを認めなくなっているようです。世の中に、罪とその恐ろしい結果があるからさまに見えるにもかかわらず、それを認めないのです。

「罪について、義について、審判について、世の過ちを指し示す」ことが、どれほど大切であるかが、よくわかるのではないでしようか。

「世の過ちを指し示す」、これが教会の根本にある使命であり、次回シノドスでの仕事の基盤でもあるのです。

(聖ペトロ広場で、「お告げの祈り」を唱えたときの話 一九八二・三・二十八)

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月 十日発行 定価 一部六十円送料六十円 一年予約七百二十円送料七百二十円 二十部以上一括購入なら送料不要

郵便振替 神戸 3-72393